

## 「焼却処理」から「火葬供養」へ お別れの時間と空間をつくる

有限会社ワンニャン・メモリアル

### 失って初めて気づく存在の大きさ ペットの死を受け入れるために

2004年から那覇市壺川でペットの火葬セレモニーを行ってきたワンニャン・メモリアル。代表の嘉数喬さんは、「10年前は「ペットも火葬するの?」と驚かれることが多かったのですが、今は「家族の一員なのになぜ火葬しないの?」と大きく意識が変わってきました。ただ、沖縄のペット火葬率は全国に比べてまだまだ低いですね」と話す。

同社は創業当時から、単なる火葬にとどまらず、供養に主眼を置いたサービスを提供しているという。ペットの死に罪悪感を感じたり、事実として死を受け入れられない飼い主が多く、また自分でそれに気づかず日が続いてからペットロスに陥る人も少なくないからだ。「当社の個別葬では、火葬の前に個室で読



ペットの名を記した塔婆に囲まれた祭壇。月に一度開催される定例の合同慰霊祭には飼い主が毎回40~50名ほど集まり、大切な「家族」を失った者同士が言葉を交わさなくても慰め合える「場」を共有している



嘉数喬さん。同社は「一般社団法人全国ペット霊園協会」の沖縄唯一の加盟業者でもある

経や献花、お清めなどのお別れのセレモニーを行います。火葬後には焼香をし、改めて遺骨と向き合う。さらに施設内の祭壇にはペットの名前を記した塔婆(お札)を飾り、葬儀後も好きな時に訪れて花を手向けるなどお参りすることができまます。そうして、小さなお別れを積み重ねることで気持ちの整理がつく、と口コミや紹介で評判が広まり、多くの飼い主を選んでいくそう。

ペット供養を生活の一部に溶け込ませられるのも、アクセスしやすい都市部に拠点を構える同社の特徴だ。住宅街で火葬業を営む上では困難も多かったが、県内焼却炉メーカーのトマス技術研究所が開発した、騒音や煙、匂いを出さない高性能焼却炉「チリメーサー」を導入できることになり、一気に課題が解決したという。「チリメーサーとの出会いがなければ、この仕事は成り立ちませんでした」と嘉数さん。

ペット供養の大切さを地道に発信する一方で、さまざまな供養の形をサービスとして提供できるよう、県外の同業他社の視察にも頻繁に出向き、積極的に情報交換を行っているという同社。火葬供養という形式は浸透し始めているが、今後の先行きについて決して楽観視はしていないそう。ペット販売総

数が15、16年前に一気に落ち込んだことがあり、ペットの平均寿命はおよそ13、14歳なのでそろそろ影響が出る頃です。また、ペットを亡くした方の中には寂しさから次のペットを飼う方も多いですが、数年後にはAIを活用したロボットペット、つまり、亡くならないペットの需要も増えると予測しています。さまざまな変化に備えながらも、これからも飼い主さんに納得していただける供養の提供を続け、少しずつでも理解を広めていけたらと思います」



小売、IT、医療、葬祭とフィールドは違うものの、共通するのは「ペットという生命をいかにビジネスと整合させるか」という難しい課題だ。今回取り上げた4社はそれぞれの立場と理念のもとに課題に向き合い、自社への答えを導きながら事業に取り組みんでいる。時代とともに変わりゆくペットビジネス。しかしその「生命の重さ」を変わらずに重んじ続けることが、変化の中で事業を持続させる礎となるのだろう。

有限会社ワンニャン・メモリアル  
那覇市壺川2-9-9 ☎098-834-1278  
<http://www.12-pet.com>

